

# 京都

KYOTO

## 不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

### 京都 検定

京都・観光文化検定試験  
京都商工会議所

## 戒めの戦争遺産

八月十五日は七十一回目の終戦の日です。二度と戦争の悲劇を繰り返してはならないという戒めを込めて、大事にしたい京都の戦争遺跡をいくつか紹介しましょう。

最初は霊山護国神社のパール判事の碑。パール博士は

極東軍事裁判の代表判事で、ただ一人日本人被告の全員無罪を主張した人です。勝った国の論理で敗戦国を裁いてはいけない、判決ありきの裁判は間違いである、と。彼の意見は戦勝国で構成された他の判事たちに採用され

ず裁判の結果はご存じの通り。しかし毅然として国際法とは何かを示した彼の見識を忘れてはいけません。碑は四度来日し京都が大好きだった博士を顕彰するためインド独立五十周年を記念して建立されました。

次は常寂光寺の「女の碑」です。夫や恋人が戦死し、独りで生きなければならなくなった女性たちのために、一九七九年に建立されました。「女ひとり生き、ここに平和を希う」と刻まれた文字は女性解放に奔走した政治家・

市川房枝氏の揮毫。戦争は出征した兵士だけが悲劇なのではありません。

最後は天龍寺の飛雲観音像。神風特攻隊で南国の空に散った十九歳の高崎文雄氏が詠んだ歌「みんなみ(南)の雲染む果に散らんとく」の

の野花とわれは咲きたし」の自筆辞世が刻まれた土台にたつ、西村公朝仏師による観音像です。手には二度と空の悲劇を繰り返さないという願いを込めて、蓮華の上にかえんを背負った十字架が、宗教の違いを超えた清らかな

祈りをすべての人が共有してほしいものです。

パール博士はかつて広島を訪れ、原爆死没者慰霊碑に刻まれた「過ちは繰り返さない」という文言を読み、憤りました。誰の誰に対する過ちなのか、と。

京都には二〇〇を超える戦争遺跡が残されており、その一つ一つが人間の愚かな性を論じています。この機会には是非皆さんの回りの戦争遺跡を探してみてください。(京都学園大学非常勤講師 堤勇二)



ラダ・ピノード・パール博士



霊山護国神社 パール判事の碑



常寂光寺 女の碑



天龍寺 飛雲観音像(部分)